

<取扱注意>

保護林区分		署等名	保護林名称	面積	設定年	設置目的	調査結果の概要	検討委員会における評価	(参考)局の実施予定等
森林生態系保護地域	1	日高北部 日高南部	日高山脈中央部 森林生態系保護地域	34,952.90	H7	エゾマツ・トドマツの北方常緑針葉樹林を始めとする多様な森林群落が生状で、大規模なまとまりをもつて存する当該地域の森林生態系を保護することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究などに資することを目的として設定する。	調査は、標高1700m以上の高山帯域で、幌尻岳の北カールを囲む稜線に出現する代表的な植物群落で実施した。登山道の通る稜線は、馬蹄形をしているため、斜面方位や風向は場所によって異なり、植物群落もこれに対応し多様な群落分布している。幌尻岳山頂付近の風当たりの強い箇所では、チシマツグザクラやガンコウランの優占する風衝地矮低木群落分布し、風下側は、ナガバキアザミが優占する高茎草本群落やみられる。西向き斜面の風衝地は、ハイマツが面的に分布している。風下側にミヤマハノキが分布するが面積は狭小である。 本調査地において、高山植物の生育に影響を与える主な要因は登山者による踏圧等の人為的要因であると思われる。しかし、登山道には荒廃箇所は確認されず、現在の利用状況が継続すれば、今後も高山植物群落は良好に維持されるものと思われる。		生物多様性検討委員会の取りまとめ及び樹海更生・十勝川源流部更生プロジェクト委員会での議論を踏まえ、森林生態系保護地域等の設定・拡充の必要性を検討するため調査等を実施しているところであり、今後、拡充等について検討していく。
	2	上川中部	大雪山忠別川源流部 森林生態系保護地域	10,867.30	H6	エゾマツ・トドマツの北方常緑針葉樹林を始めとする多様な森林群落が生状で、大規模なまとまりをもつて存する当該地域の森林生態系を保護することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究などに資することを目的として設定する。	植生調査は、旭岳上部の火山荒原群落と旭岳から間宮岳に至るまでに出現する風衝地矮低木群落や雪田群落等の代表的な植物群落で実施した。間宮岳周辺では、風衝地にコメバツグザクラやミネズオウ等の低木が混生する群落や雪田にはチングルマ、ミヤマクロスゲ、キバナシヤクナゲの優占する群落がみられる。また、旭岳の上部は、植被の少ない火山荒原群落分布し、ヒメイワタデのみが生育する群落やイワブクロやコメススキの優占する群落がみられる。いずれも植被率は35%以下である。姿見の池の付近には登山道脇にハイマツやチシマザサの優占する群落が出現する。 旭岳の上部は、利用者数は多いが、登山道の荒廃等は確認されなかったため、今後も現状の植物群落が維持されていくものと思われる。 一方、利用動態調査においては、立入禁止部(満月沼付近)における踏圧による植生衰退等が確認された。		生物多様性検討委員会の取りまとめ及び樹海更生・十勝川源流部更生プロジェクト委員会での議論を踏まえ、森林生態系保護地域等の設定・拡充の必要性を検討するため調査等を実施しているところであり、今後、拡充等について検討していく。 なお、踏圧等については既に木道・歩道整備、標識類整備、巡視、パンフ作成など対応を取っているところ。
	3	渡島	狩場山地須築川源流部 生態系保護地域	2,732.29	H5	当該地域の林分構成の特質としてブナの混交割合が高く、林分蓄積も多いなど量・質ともにブナ帯における原生的な自然環境を備えており、当該地域の森林生態系を保護することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究に資することを目的として設定した。	調査は、狩場山の山頂部に分布する代表的な群落を対象とした。山頂部には、ハイマツ群落とチシマザサ群落がモザイク状に分布しており、雪田には、アオノツグザクラの優占する雪田矮低木群落やイワイチョウが優占する雪田草原が分布している。また、一部にイワノガリヤスの優占する草原も面積は小さいが分布している。 本調査地は、登山者の利用も少なく、高山植物に与える人為的なインパクトは小さく、今後も現状の高山植物群落は維持していくものと思われる。		森林生態系保護地域として手を加えず自然の推移に委ねたい。
植物群落保護林	4	日高北部	日高エゾマツ保護林	1.00	S48	エゾマツを主体とする林分で、昭和29年風倒の免害林であり、亜高山帯に生育するエゾマツ林として学術参考とする。	2つの調査プロットとも、エゾマツ、トドマツの中大径木が生育する単層林。高木層は28mに達する。保護対象となるエゾマツ、トドマツが優占しており、立木本数では2樹種で87～100%を占める。プロット2では、ダケカンパの混交が見られた。エゾマツ大径木は老齢木であり、サルノコシカケ等の付着もみられている。 林床はクマイザサが優占度5で繁茂しており、エゾマツの稚樹は少ないが、大径木の風倒木が確認され倒木更新もみられた。草本層ではその他、クサソテツ、スゲ類も見られた。シカの足跡有。		群落保護林として手を加えず自然の推移に委ねたい。
	5	日高北部	幌尻原生林保護林	52.17	S46	過去に施業が行われていない林分を、そのまま保存してその林況の推移を知り、一般施業区との比較調査に役立てる。	森林調査のいずれのプロットとも、エゾマツ、トドマツが優占している。 斜面中部の緩傾斜地に設定したプロット2と比較して、斜面下部に設定した調査プロット1では、広葉樹の混交率が高くなっている。過熟木の倒木もみられ、風衝害もみられた。頂端枯損木あり。 高木層は30mに達する。亜高木層も含めトドマツ、エゾマツが優占する。林床はクマイザサが優占度3～4で繁茂しており、その他クサソテツ、ナライシダ、スゲ類等みられた。エゾマツ、トドマツの稚樹は少なかった。 シカの足跡有。		群落保護林として手を加えず自然の推移に委ねたい。
	6	上川中部	大雪山系高山帯保護林	8,813.68	S50	大雪山系高山帯及びこれに続く亜寒帯林の植物群落を保護し、学術の参考とする。	植生調査は、黒岳から北鎮岳に至る登山道脇で出現する代表的な植物群落を対象とした。風衝荒原や火山荒原には、ヒメイワタデ、イワブクロやエゾマツメヤナギの優占する群落がみられ、雪田には、タカネトウチソウやチングルマの優占する群落分布している。山頂の尾根部ではハイマツ群落が成立し、一部にはミヤマハノキが優占している。黒岳上部東側の登山道には、ウラジロナナカマドの優占する群落やナガバキアザミの優占する高茎草本群落もみられる。 本調査地は利用者数は多いが、登山道に沿ってロープが張られている箇所がみられ、登山者の高山植物への立入を制限している。また、登山道には荒廃箇所もみられないため、現在の利用状況が継続すれば、今後も高山植物群落は良好に維持されるものと思われる。 一方、利用動態調査においては、ストック等による登山道の浸食が懸念される状態であることが判明した。		生物多様性検討委員会の取りまとめ及び樹海更生・十勝川源流部更生プロジェクト委員会での議論を踏まえ、森林生態系保護地域等の設定・拡充の必要性を検討するため調査等を実施しているところであり、今後、拡充等について検討していく。 なお、踏圧等については既に巡視(GSS配置)、歩道・木道・階段・木製流路・駐車場整備等など対応を取っているところ。
	7	上川中部 上川南部	十勝山系高山帯保護林	3,745.37	S50	高山帯に成立している高山植物(キバナシヤクナゲ、ツグザクラ、エゾコザクラ、イワウメ、イワヒゲ、コマクサ等)の保護を図る。	調査は、黒岳から北鎮岳に至る登山道脇で出現する代表的な植物群落を対象とした。風衝荒原や火山荒原には、ヒメイワタデ、イワブクロやエゾマツメヤナギの優占する群落がみられ、雪田には、タカネトウチソウやチングルマの優占する群落分布している。山頂の尾根部ではハイマツ群落が成立し、一部にはミヤマハノキが優占している。黒岳上部東側の登山道には、ウラジロナナカマドの優占する群落やナガバキアザミの優占する高茎草本群落もみられる。 本調査地は利用者数は多いが、登山道に沿ってロープが張られている箇所がみられ、登山者の高山植物への立入を制限している。また、登山道には荒廃箇所もみられないため、現在の利用状況が継続すれば、今後も高山植物群落は良好に維持されるものと思われる。		生物多様性検討委員会の取りまとめ及び樹海更生・十勝川源流部更生プロジェクト委員会での議論を踏まえ、森林生態系保護地域等の設定・拡充の必要性を検討するため調査等を実施しているところであり、今後、拡充等について検討していく。